

島根県・山口県の海の文化遺産に係わる資料

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/36242

島根県・山口県の 海の文化遺産に係わる資料

佐々木 達夫、佐々木花江

鳥取県と山口県は海揚がり品が少ないが、その間に位置する島根県は海揚がり品が以前から比較的多く知られていた地域である。島根半島と隠岐島の間の海は海上交通や漁業が盛んな地域であり、底引き網で引き揚げられた弥生時代や古代・中世の陶磁器等が知られていた。それらを整理集成する作業と海岸の踏査、情報収集を2010～2011年を中心に日本海域水中考古学会会員とともに実施した。本論はその報告である。調査中、本文にお名前を掲げた多くの方々に現地でご助力いただいた。アジア水中考古学研究所理事長林田憲三氏、副理事長野上建紀氏をはじめ研究所の皆様、日本海域水中考古学会会員諸氏に感謝。

島根県 9 市町。

隠岐郡隠岐の島町

西郷港など隠岐の島の港は江戸時代から明治30年頃まで北前船の風待ち港として栄えたと言われる。西郷港の隠岐ポートプラザには北前船模型や船筆筒などが展示されているが、海揚がり品の展示はない。隠岐郷土館には北前船模型や生活用品としての陶磁器が展示されている。温泉津焼や瓶、甕、壺、タコ壺などが展示品に見られる。隣接して都万目の民家が移築され、温泉津焼甕が展示されているが、海揚がり品はない。

隠岐島隠岐の島町都万津戸の海岸で、江戸時代後期の肥前陶磁器など、まとまった数量の陶磁器が採集された。紹介した写真は、久保公子さん保管の旧都万村津戸海岸採集品である。津戸は隠岐の島西南部の小港町で、コンクリートで覆われた東側の漁港、岸边は道路で家がない西側の小さな港がある。陶磁器を採集するなら、西側の家のない岸边の道路下となる。東側の漁港に面する家々で使用された生活用品としての染付茶碗が西側に捨てられた、あるいは海岸に打ち寄せられたのであろうか。

隠岐郡海士町

隠岐神社や海士町歴史民俗資料館に海揚がり資料の展示保管はない。港や海岸はコンクリート舗装されている。青谷海岸に小石に混じって最近の陶磁器が少し

落ちていた。陶器鉢1片、染付碗2片を撮影。

隠岐郡西ノ島町

西ノ島町ふるさと館に海揚がり品の展示はない。海岸は断崖かコンクリートで保護され、狭い小石の海岸は漂着したゴミが見られる。古い陶磁器片は見られない。復元された番小屋が海に建つ。海の文化財として貴重な観光用野外展示である。

安来市

安来市立歴史資料館に海揚がり品の展示はない。

東出雲町 海揚がり品の情報はなし。

松江市

松江市三保関町福浦海底遺跡（境海峡遺跡）は北緯35度33分、東経133度15分にあり、昭和40年頃に1万トンバースの埋立に際して、福浦沖の海底から吸い上げた泥砂に混じっていた多数の土器片や骨角器、クジラ・マグロの骨、貝殻などを、境港市の佐々木謙・矢野誠二が採取した。採集品は佐々木古代研究室/鳥取県立博物館が保管していた（『境港市史』、『鳥取県埋蔵文化財シリーズ3旧石器・縄文時代の鳥取県』）。佐々木謙さん没後、採集品は米子市埋蔵文化財センターが保管することになった。ただし資料は鳥取地震の被害を受けて混じったため、整理中で見ることができない。

朝鮮半島楽浪郡製瓦質土器壺が松江市鹿島町沖で引き揚げられた。弥生時代後期末に相当する時代である。松江市教育委員会文化財課の保管である。鹿島町立歴史民俗資料館（現・松江市立鹿島歴史民俗資料館）が2003年に開催した展覧会図録『海の記憶一波濤を越えた人々』2003,19頁に実測図が掲載され、現在も鹿島歴史民俗資料館に展示されている。島根半島の松江市鹿島町海岸と隠岐中ノ島の間の海底から引き

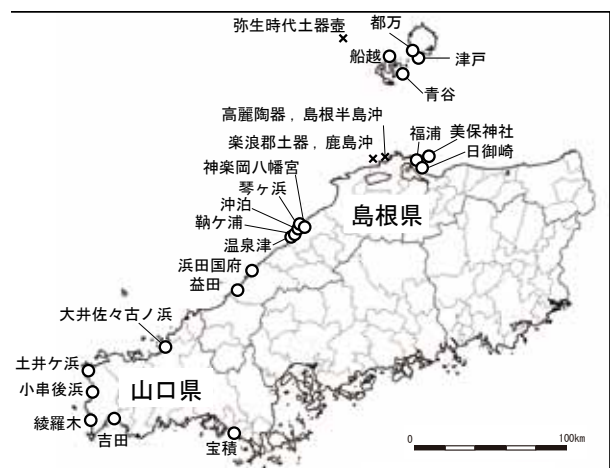


Fig.1 島根県・山口県の調査関連地位置図

揚げられた陶磁器のうちの 1 点である。

古墳時代後期の須恵器壺。松江市教育委員会文化財課保管で、松江市立鹿島歴史民俗資料館で展示している。海揚がり品で表面に貝が付着している。前述カタログ 19 頁に写真が掲載されている。

高麗時代の黒釉陶器瓶 1 点が島根半島沖から引き揚げ後に松江市美保関町爾佐神社に奉納されたようである。松江市立鹿島歴史民俗資料館で展示している。表面に貝が付着している。前述カタログ 19 頁に写真掲載される。展示パネルには引き揚げ地点が図示されていない。

松江市鹿島町の資料撮影について、松江市教育委員会文化財課調査係調査係長、赤澤秀則さんにご助力いただいた。

この他に弥生時代土器壺が隠岐の西北側から発見され、松江市立鹿島歴史民俗資料館のパネルに写真が掲載される。採取地は隠岐島付近の水深 260 m（北緯 36 度 14 分、東経 133 度 15 分）である。弥生時代後期下大隈式土器。漁獲とともに鳥取県境港に上げられたため、鳥取県立博物館が所蔵することになった。パネルの写真はその土器である。鳥取県踏査報告に写真などを掲載した。実測図は常松幹雄（常松幹雄 1994「本州島域における北部九州の壺型土器」『福岡考古』16 号、39-46）。

隠岐島沖引き上げの弥生土器壺は実測図および所見が以下の論文に掲載されている。常松幹雄 1994「本州島域における北部九州の壺型土器」『福岡考古』第 16 号福岡考古懇話会。写真は最近では『古代出雲文化展』図録に掲載された。鳥取県立博物館学芸課人文担当学芸員、東方仁史 higashikata-hi @ pref.tottori.jp さんの情報では、館蔵の弥生土器壺は弥生時代後期中葉で、島根県隠岐島島前三渡灯台北北西 18 マイル（海中 260 m）で 1983 年 11 月にカニ漁中に採集された。北九州系の土器で、福岡県下大隈並行（青木皿古）、口縁部部の一部が欠損するが、ほぼ完形品である。

東方仁史さんの情報では、島根県松江市美保関町福浦海底遺跡から採集された骨角器（離頭銚頭、釣針、柄頭、刺突具等）、土器（縄文土器、土師器、須恵器）があり、時代は縄文～奈良時代である。採集年は昭和 40 年頃で、採取地は鳥取県境港市の埋め立て地。境水道の浚渫泥砂を埋め立てに利用しており、その浚渫泥砂の中から採集されたものである。その浚渫泥砂は、

福浦の港湾近くであった。また、鳥取市湖山池湖底遺跡から引き揚げられた土器は弥生時代後期～古墳時代前期である。

松江市美保関町美保神社境内に四爪鉄錨 3 本が保管されている。現地案内板の説明は以下のようなものである。京都府加佐郡岩瀧の宝栄丸が明治 29 年、水晶と但馬牛を積み、ウラジオストックに向かう途中、能登沖で大暴風に襲われ、祈祷のため舵のワカバを折、進退の自由を失った。今はこれまでと乗組員一同は髪を切り、美保大神に祈願を籠めつつ風波のまにまに漂流する。折しも船首の波間に一尾の大鯛があらわれ、船は見る見る鯛の行く西方に向かって徐々に進む。間もなく風は東風と変わり、夜になって闇のまま漂流を続けた。暁に至りて東の空白む頃風波は和らぎ、前面かすかに山影が見えた。美保の岬であった。乗組員一同歓喜に打ち震え、神恩の広大無辺なるを絶叫し、蘇生したる心地になった。湾口に近づくと大鯛の姿は消えるように見えなくなった。梶なき船、鯛に導かれ、祈願を籠めた大神の港に入ったことは不思議なことであり、厚き御神徳によるものとして感涙にむせび、奉賛としてこの折れ梶を献納した。難船 京都府丹後国加佐郡岩瀧 赤井勘助 手船 寶栄丸 吉右衛門外船中 19 名。

明治 29 年 (1896)、丹後岩瀧を対岸のウラジオストックに向け出港した 19 名乗の船が暴風に会い能登で難船し、翌朝美保関に漂着した。その船で使用した年代のわかる四爪鉄錨である。類似の四爪鉄錨が日本海から引き揚げられることが多く、この形式は 19 世紀であることもわかる。また、島根半島、丹後半島、能登半島という 3 地点は難船、破船、沈船の多い海の要衝であることも注目される。

松江市穴道菟古館に海揚がり品の展示保管はない。

出雲市

出雲市大社町日御崎ヒミサキ海岸で陶磁器が採取でき、北前船が沈んだという伝承がある。島根県立古代出雲歴史博物館に海揚がり品の展示はない。

多伎町きらら海岸は砂浜と小石の海岸が続き、陶磁器などは落ちていない。日御碕海岸は絶壁で採集できなかったが、日御碕海底から岡本哲夫氏がダイビング中に陶胎染付碗を引き揚げている（野上建紀『海揚がりの肥前陶磁』有田町歴史民俗資料館, 2010 に写真掲載）。大浦漁港、宇龍漁港、鷺浦漁港の海岸はコンクリートで整備され採集できない。猪目町海岸は小

石と砂の海岸で、印版染付碗の小片が1片のみ落ちていた。

太田市

石見銀山資料館、重要文化財熊谷家住宅、温泉津ゆうゆう館資料展示室に海揚がり品の展示保管はない。2010年、岩見銀山世界遺産センターの守岡正司、林健亮、中田健一の各氏のご助力で、石見銀山の積み出し港である温泉津湾周辺から採集された陶磁器片を見る。センター保管の海揚がり品は、沖泊の東北600mほどにある白ヶ浦海岸で個人が採集した20点弱の陶磁器、沖泊海底から採集した5点ほどの陶磁器、及び沖泊海底でダイビング調査中に発見して写真撮影し、そのまま海底に保存している陶磁器がある。石見銀山関連海揚がり品は、島根県愛護協会の『季刊文化財』に守岡さんが2011年に発表した。

温泉津は湾奥から街道に沿って家が立ち並ぶが、湾奥で道路際に船を置く狭い傾斜した海岸があり、そこに小石や陶磁器などが散乱している。ほとんどが明治大正昭和のようで、温泉津焼の陶磁器片も見られる。海揚がりというより温泉津の生活廃棄品が川で流れて海岸に堆積しているように見える。一部をサンプルとして採集した。はなぐり岩が少し残る。海中に入りこむ船移動用線路、造船所跡と現在稼働中の造船所もある。海岸に温泉津ゆうゆう館資料展示室が観光・展示施設として建ち、交易された九谷焼なども展示される。

石見銀山世界遺産センターが保管する個人採集の沖泊の海底採集品5点は2010年10月に有田町歴史民俗資料館で展示し、18世紀後半の波佐見染付皿、18世紀後半の有田青磁染付碗、明治時代以降の型紙刷絵碗がある。沖泊湾の外側には2か所の瀬があり、その一つ立鳥瀬から幕末明治の陶磁器と直方体の石材が採集された。沖泊には、もやいが2種類あり、岩を抉って穴が開いた「はなぐり岩」とピットと呼ばれる棒状に岩を削りだした岩柱・係留柱・白岩が残る。沖泊は静かな小さな風待ち港で、周辺は緑の山、狭い谷間に集落があり、石見銀山の積み出し港として知られる。湾奥はコンクリートで舗装されており、海岸で陶磁器などを採集することはできない。沖泊の湾口部の海底で潜水調査で発見され、あるいは採集された陶磁器は18世紀以降の肥前陶磁器である。

石見銀山世界遺産センターが保管する、沖泊東北側の大田市白ヶ浦海岸から採集された陶磁器は肥前が

多く、18～19世紀が主であり、個人の採集品である。付近の集落の廃棄品かもしれない。

沖泊の東側にある櫛島と三船の間の小さな入江の小石海岸に、陶磁器片が散布している。家が立っていたような平地はない。幕末明治の染付もある。波佐見皿と印版刷絵碗。褐釉播鉢や鉄釉甕の破片が多い。漂着物か、漁民が使用したか、それとも以前は家があり生活廃棄品か、不明である。

温泉津や沖泊とともに中世からの銀積み出し港として知られる鞆ヶ浦は大田市仁摩町にある。岩に綱を通す「はなぐり岩」が断崖に穿たれ、今も使われている。鞆ヶ浦東側に広がる大田市仁摩町琴ヶ浜海岸は鳴き砂で知られる長さ1.6kmの砂浜で、僅かな小片の印版染付や施釉陶器片が落ちているが、砂浜は清掃されている。

太田市仁摩町の神楽岡神社境内に四爪鉄錨が奉納されている。長さ287m、爪幅130cm。昭和55年に五十猛町大浦沖の海底85～90尋の地点で魚網に掛って引き揚げられ、昭和56年に豊漁を祈願して仁万漁協一同が神社に安置した。

岐久海岸は小石海岸と砂浜海岸があり、どちらも陶磁器などは落ちていない。

江津市

甘南備寺宝物館に海揚がり品はない。江津市内の道路際に「はなぐり岩」が置かれているが、船ではなく牛馬を繋ぐ石である。太田市の海岸に残る船を繋ぐ「はなぐり岩・鼻ぐり岩・鼻グリ岩・鼻グリ石」と同じ名称である。

浜田市

浜田市郷土資料館、浜田市金城歴史民俗資料館に海揚がり品の展示はない。浜田国府海岸は砂浜で、江戸時代の肥前陶磁器片、明治時代の染付などが採集されている。久保公子さん保管品を写真撮影する。

村上勇さんからの情報。「25、6年前に、島根県立博物館の学芸課長をしていた森口市三郎氏（宗教美術研究者）より、浜田の大島海運の船が、粉引皿を相当数（10枚位か）引き揚げて持っていると言ったが、私は確認調査をしていない。」日本海における朝鮮陶磁器の海揚がり情報は現在のところ唯一である。

浜田市沖から昭和25年に長沙窯碗が底引き網にかり引き揚げられている。現在保管場所の山口県萩市で報告する。

益田市

益田市立歴史民俗博物館に海揚がり品の展示はない。益田市内の河口に近い遺跡から中世東南アジア・中国の陶磁器が多く出土している。敷石遺構が発掘された。中須西原遺跡で2か所、中須東原遺跡で1か所あり、河川の際に人頭大以上の角礫が敷かれている。船着場、荷揚げ場である。中須西原遺跡では長さ25m、幅10m以上のものと、長さ30mのものがあり、15世紀後半から末頃と推定されている。中須東原遺跡では長さ40m、幅10mほどであり、16世紀頃と推定されている(木原2010)。中世今市船着場跡は大喜庵麓を流れる乙吉川沿いに石垣が約30m続く。中世は益田川と高津川の合流地点であり、残存する石垣は江戸時代後半から明治時代頃の技法を用いている。現存石垣の直下からも敷石遺構が発見され、戦国時代には港及び市場であったと推定されている(木原2010, 服部英雄, 2000)。

13世紀から15世紀中頃までの寒冷化による海面下降、海退が飛砂を生み、港町や港が砂に埋もれ、16世紀の温暖化による2mの海面上昇、海進が港町と港を内陸側に移動させたという(村上2000, 2009)。村上勇氏は中須西原遺跡などから今市船着場遺跡に移動する原因を気候変動による飛砂現象としている。

山口県 4市町。

阿武町 海揚がり品の情報はない。

萩市

萩市立萩博物館に海揚がり品の展示収蔵はない。熊谷家住宅、菊屋家住宅に海揚がり品の展示収蔵はない。萩市内中善寺の墓地には遠隔地から来て没した船乗りの墓があったが、墓石を整理したようで、2010年踏査時点では見つからない。山口県立萩美術館・浦上記念館、萩市立須佐歴史民俗資料館に海揚がり品の展示収蔵はない。須佐唐津窯跡の製品は江戸時代に日本海を運ばれ、山陰、北陸、北海道の日本海側遺跡から出土しており、日本海の海上交通を利用した生産の場であった(佐伯2010)。

萩市大井下馬場に碇石が保管されている。大井佐々古ノ浜で発見されたと言われ、「元寇の碇石」として昭和55年4月25日、萩市文化財に指定された。個人蔵(出口栄城)で庭に立てている。残存長

2375cm、復元長286cm。大井下馬場にある碇石説明板の内容を次に記す。現在地上に現れた高さは2.3m、前面の最大幅は34cm、横幅最大22cm。全長推定2.8m。不整方柱形の暗紫色砂質凝灰岩製。中央部両横に深さ約2cm、幅5cmの帯状の溝がり、裏にも25cm間隔で2本の並行する陰刻線がある。元寇の碇石は全国で38か所、40個が確認され、ほとんどが九州の日本海側、福岡県の博多湾を中心に、佐賀県、長崎県で発見されている。山口県からは豊浦郡豊北町大字神田上の江尻に碇石らしいものが見つかった。この碇石は我が国の元寇遺物として最東端に位置する資料である。

碇石等の写真及び情報は2011年7月、萩市大井1404、萩市大井公民館長の吉屋安隆さん、大井ふる里愛好会事務局 c-ooi@city.hagi.lg.jp、及び萩市大字江向510、萩市歴史まちづくり部文化財保護課の松浦さん bunkazai@city.hagi.lg.jp から頂いた。感謝。

萩市江崎にお住まいの小野都さんが島根県浜田沖から引き揚げられた長沙窯碗5点を保管している。広島市の村上勇氏の手配で、益田市の佐伯昌俊氏と共に2011年9月4日、小野都さん(85歳)宅で撮影・実測する。2.口径13.8cm、高さ4.3cm、低径4.6cm。3.口径13.8cm、高さ4.3cm、低径4.9cm。4.口径13.7cm、高さ3.9cm、低径4.6cm。昭和25年、浜田沖の海底から底引き網にかかり、甕とその中に入った陶磁器が引き揚げられた。船は下関港に入港し、大きな甕は港で壊され捨てられた。下関港にいた船大工が山口県萩市江崎町(現地名)の小野医院、小野正さん(故人)に連絡し、小野正氏が下関港に駆けつけ、遺されていた碗20点を入手した。船大工はそのうちの15点を東京に鑑定のため持っていき、それらの碗は割れたと言って小野氏の元に戻らなかった。旧小野医院にお住まいの小野都さん宅に5点残り、いずれも同じ種類の長沙窯碗である。都ミヤコさんは正マサさんの娘。日本海の家揚がり長沙窯製品はこれが現在唯一である。村上勇氏によると、長沙窯碗は隠岐の島の遺跡から出土したことが新聞報道された。

長門市 長門市の水中文化財に関する情報はない。

山口市

山口県立山口博物館は、小畑焼の19世紀染付6点、深川焼の白濁釉壺・明治10年造が展示されている。小畑焼の黒彩も施される染付は日本海域の海岸で表採

されるなかに含まれているようである。ただし、有田や九谷とも類似した製品である。山口市立歴史民俗資料館は休館中のため、海揚がり所蔵品については不明。

下関市

下関市立豊北町歴史民俗資料整理室には海揚がり資料はないが、多くの民俗資料が保管され、海揚がり品と類似した生活用品が見られる。下関市立長府博物館は幕末の資料で、海揚がり品の展示はない。下関市立考古博物館は弥生時代の資料を展示している。下関市立豊北歴史民俗資料館の資料整理室、岡本さんに漂着ゴミを集めている方について話を聞く。下関市立土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムには地元の船に関する展示や大量のタコ壺の展示もある。館員の小林善也さん(kobayashi.yoshiya@city.shimonoseki.yamaguchi.jp)の案内で、豊北町に残る幕末明治の窯跡を見学した。原窯跡、境下窯跡の物原に散乱する磁器片の写真を掲載した。下関市立豊北歴史民俗資料館には町内で幕末明治に陶磁器を生産した原窯跡、境下窯跡、宝蔵窯跡、向坊窯跡、平畑窯跡、飯の山窯跡、大山田窯跡、中原窯跡の採集品も収蔵されている。いずれも製品は肥前磁器に似ているが、やや質が劣り、日本海側の海岸でしばしば見る筆描染付瓶皿碗や印版染付碗皿、染錦鉢皿などに良く似ている。日本海交易で運ばれた陶磁器の産地の一つであったかもしれない。

例えば原窯跡は安政元年(1854)に和田孫四郎と庄屋福澄治兵衛が筑前須恵村から陶工を招き開窯し、地元の人を肥前に遣わして技術を学ばせた。陶器窯から磁器窯に変わり、染付を作り、碗皿徳利鉢盃などが毛筆、型紙、銅版で作られ、近隣に販売した。明治29年(1896)には錦手染付を作り始め、北浦焼と称して釜山や豊前中津を中心に、行橋・門司・芦屋方面に二見・栗野・特牛の港を経て船で運んだ。朝鮮向けは伊万里外商の柳ヶ瀬六次商店に委ねて販路を広げた。最盛期の明治20年代は職人が60名ほどいた。大正10年(1929)に廃窯。小林善也さんに感謝。

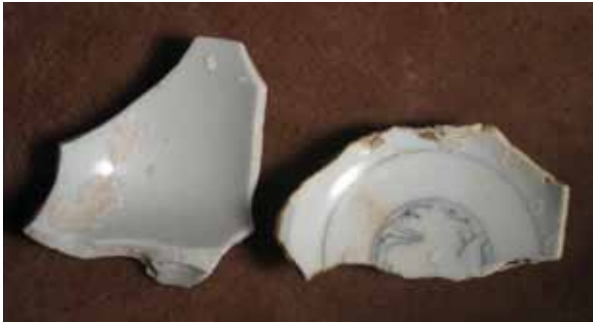
漂着物を採集した小学校校長だった衛藤和行さんは10年前に故人となり、収集品は空家となった家に置かれている。下関市では衛藤さんコレクションの一部を資料館で展示したことがある。下関市環境部が文化庁の依頼で漂着物のことを調べている。資料として調査する必要がある。豊北町土井ヶ浜で陶磁器が採集され、写真を掲載した。津の島博物館は所蔵されてい

るかどうか不明。

今回多くの陶磁器片を掲載した島根県の海岸採集の陶磁器は、広島市の久保公子さんが保管している。久保さん宅保管のビーチコーマー採集品のうち、日本海海岸を中心とする撮影資料は以下のものである。北海道小平町臼谷漁港南、小平町ナカツカさん採集。北海道函館市大森海岸。新潟県佐渡市真野湾、唐津陶器碗や肥前陶磁器。佐渡市小木地区宿根木海岸。新潟県柏崎市高浜海岸。福井県福井市鷹巣海岸、林さん採集。福井県越前海岸、林さん採集。京都府京丹後市浜詰。島根県浜田市国府海岸。島根県隠岐都万村津戸。山口県下関市豊浦町小串後浜。下関市豊北町土井ヶ浜。下関市吉田海岸、小嶋さん採集。下関市綾羅木海岸、小嶋さん採集。山口県光市宝積海岸。採集品撮影にあたりお世話になった久保公子さんに感謝。

参考文献

- 井上寛司,2010「山陰における中世の流通」『第38回山陰考古学研究集会』1-14.
- 木原光,2010「益田市周辺の港湾遺跡群」『第38回山陰考古学研究集会』15-31.
- 中森祥,2010「因幡・伯耆における中世後期の流通」『第38回山陰考古学研究集会』39-49.
- 佐伯昌俊,2010「近世須佐焼に関する一考察」『山口考古』30,65-82.
- 野上建紀,2010『海揚がりの肥前陶磁』有田町歴史民俗資料館
- 村上勇,2009「バリア海退が中世地域社会に与えた影響について」『西国城館論集Ⅰ』中国・四国地区城館調査検討会,213-225.
- 鹿島町立歴史民俗資料館(現・松江市立鹿島歴史民俗資料館),2003『海の記憶—波濤を越えた人々—』
- 服部英雄,2000「今市船着場遺跡の歴史的な役割:益田川の河口津をめぐる状況」『中世今市船着場跡文化財調査報告書』益田市教育委員会
- 村上勇,2000「出土陶磁器から見た益田今市町地割地区の変遷」『中世今市船着場跡文化財調査報告書』益田市教育委員会
- 常松幹雄,1994「本州島域における北部九州の壺型土器」『福岡考古』16:39-46.



隠岐の島町都万津戸海岸採集品、久保公子氏保管



隠岐の島町都万津戸海岸採集品、久保公子氏保管



隠岐の島町都万津戸海岸採集品、久保公子氏保管



隠岐の島町都万津戸海岸採集品、久保公子氏保管



Fig.2 島根県



隠岐の島町都万津戸海岸採集品、久保公子氏保管



隠岐の島町都万津戸海岸採集品、久保公子氏保管



隠岐の島町都万津戸海岸採集品、久保公子氏保管



隠岐の島町都万津戸海岸採集品、久保公子氏保管



Fig.3 島根県



隠岐の島町都万津戸海岸採集品、久保公子氏保管



隠岐の島町都万津戸、西側の港で採集が可能。東側の港はコンクリートで覆われている。



隠岐郡西ノ島町船越の港に建つ石製常夜燈



西ノ島町の海岸に建つ復元されたイカ打ち寄せの見張り小屋、由良比女神社の石鳥居



隠岐郡海士町青谷海岸と採集陶磁器片



隠岐の島町、重要文化財庄屋職佐々木家住宅と展示された陶磁器。温泉津の甕もある。海岸で採集される陶磁器片と同じ種類である。

Fig.4 島根県



隠岐の島都万目から移築された民家に
展示される温泉津の甕



隠岐郷土館と展示された陶磁器。海岸にも同じ種類の破片が落ちている

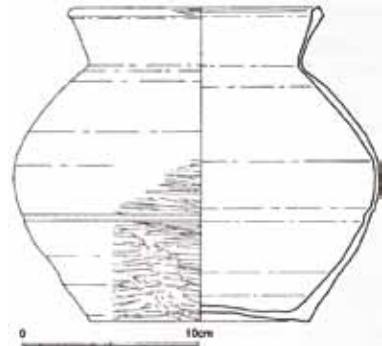
Fig.5 島根県



弥生時代末、朝鮮半島楽浪郡製瓦質土器壺、鹿島沖揚がり



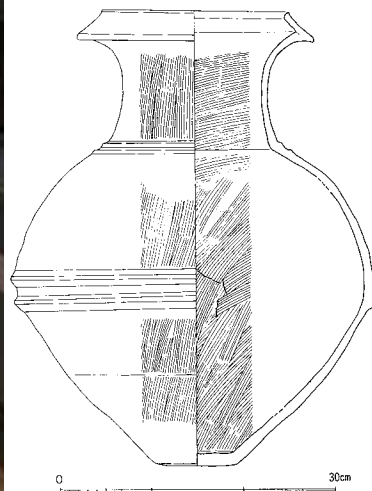
左、古墳時代後期須恵器壺、鹿島沖揚がり。右、高麗鉄釉瓶、島根半島沖揚がり、松江市美保関町爾佐神社蔵。松江市立鹿島歴史民俗資料館保管。



弥生時代末、朝鮮半島楽浪郡製瓦質土器壺。実測図は『海の記憶』鹿島町立歴史民俗資料館、2003年より。



弥生時代後期 2 世紀の北部九州の壺。隠岐の島沖海揚がり。鳥取県立博物館蔵。常松幹雄氏実測。



古墳時代後期須恵器壺、弥生時代末朝鮮半島楽浪郡製瓦質土器壺、弥生時代壺の海揚がり地点と生産地からのルートを示す展示パネル。土器壺実測図は『海の記憶』鹿島町立歴史民俗資料館、2003年より。



Fig.6 島根県



松江市美保関町美保神社境内保管の四爪鉄錨。明治 29 年 (1896) に丹後岩瀧を出港した 20 名乗の船が暴風に会い能登で難船し、流されて美保関に漂着した。年代のわかる四爪鉄錨として貴重である。日本海沿岸の海底から引き揚げられる四爪鉄錨は同じ種類のものが大部分を占め、比較的大型のものは 19 世紀が中心であると思われる。



出雲市日御碕海底で岡本哲夫氏がダイビング中に発見した。『海揚がりの肥前陶磁』2010 年、有田町歴史民俗資料館より。

Fig.7 島根県



大田市温泉津の港



大田市温泉津の港海岸に散乱する陶磁器片



大田市温泉津の港、採集品



大田市温泉津沖泊港、はなぐり岩が残る



大田市温泉津沖泊港に建つ恵比寿神社。港施設と神社は海の安全を祈る漁業宗教文化遺産でもあり、各地に残る。



大田市温泉津沖泊港、2007年海底引揚げ陶磁器、18～19世紀、大田市教育委員会保管。『海揚げりの肥前陶磁』2010年から。

Fig.8 島根県



沖泊海底採集品、石見銀山世界遺産センター保管



大田市温泉津沖泊の東側にある入江



大田市温泉津沖泊の東側にある入江の海岸の陶磁器片



大田市温泉津沖泊の東側にある入江の海岸で採集した陶磁器片。19世紀が主。



大田市仁摩町琴ヶ浜



大田市鞆ヶ浦東側の琴ヶ浜で採集した陶磁器片。19世紀後半から20世紀。



Fig.9 島根県



大田市仁摩町鞆ヶ浦



大田市仁摩町鞆ヶ浦の崖面に挟られた鼻ぐり岩



温泉津白ヶ浦採集品、石見銀山世界遺産センター保管



採集地不明、石見銀山世界遺産センター保管



採集地不明、石見銀山世界遺産センター保管



鞆ヶ浦の崖面に挟られた鼻ぐり岩は現在も使われている。



松江市美保関町の常夜燈

Fig.10 島根県



海揚げり四爪鉄錨、神楽岡八幡宮保管



浜田市国府海岸採集品、久保公子氏保管



浜田市国府海岸採集品、久保公子氏保管



浜田市国府海岸採集品、久保公子氏保管



浜田市国府海岸採集品、久保公子氏保管



浜田市国府海岸採集品、久保公子氏保管



浜田市国府海岸採集品、久保公子氏保管

Fig.11 島根県



浜田市国府海岸採集品、久保公子氏保管



浜田市国府海岸採集品、久保公子氏保管



浜田市国府海岸採集品、久保公子氏保管



浜田市国府海岸採集品、久保公子氏保管



浜田市国府海岸採集品、久保公子氏保管



浜田市国府海岸採集品、久保公子氏保管



浜田市国府海岸採集品、久保公子氏保管

Fig.12 島根県



浜田市国府海岸採集品、久保公子氏保管



浜田市国府海岸採集品、久保公子氏保管



浜田市国府海岸採集品、久保公子氏保管



浜田市国府海岸採集品、久保公子氏保管



浜田市国府海岸採集品、久保公子氏保管



浜田市国府海岸採集品、久保公子氏保管



Fig.13 島根県

浜田市国府海岸は河川と港の間に砂浜が広がり、陸地側は町となる。江戸時代は潟であったか。町の生活廃棄物が海岸に打ち寄せられたのだろうか。



島根県浜田市沖海揚がり長沙窯彩絵碗、萩市の小野都さん所蔵。

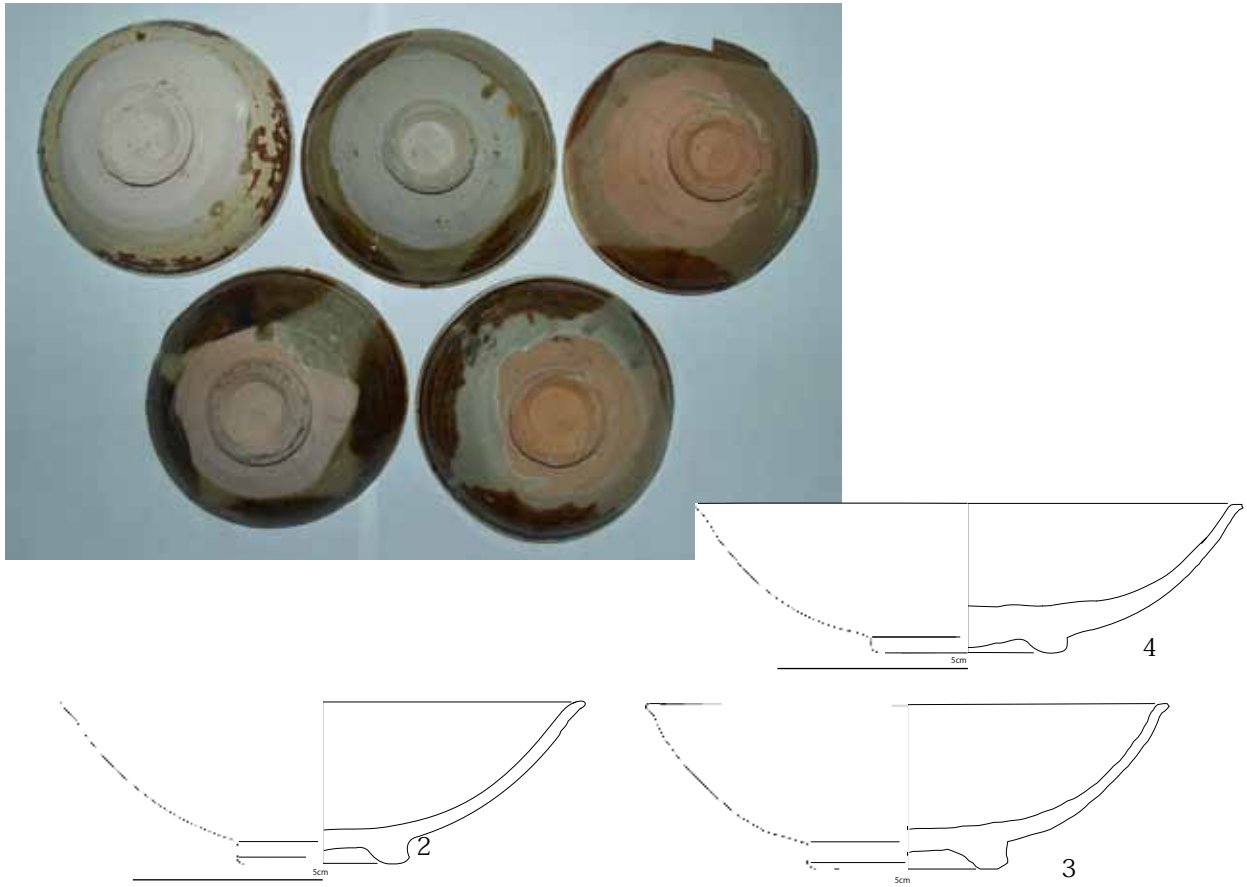


Fig.14 島根県



下関市豊北町土井ヶ浜採集品、久保公子氏保管



下関市豊北町土井ヶ浜採集品、久保公子氏保管



下関綾羅木海岸採集品、久保公子氏保管



下関市吉田海岸採集品、久保公子氏保管



Fig.15 山口県



光市宝積海岸採集品、久保公子氏保管



光市宝積海岸採集品、久保公子氏保管



光市宝積海岸採集品、久保公子氏保管



下関市豊北町原窯跡物原



豊北町境下窯跡物原



豊北町境下窯跡物原



豊北町境下窯跡物原



豊北町原窯跡物原



豊北町境下窯跡物原



豊北町境下窯跡磁器ハマ、タコハマ

Fig.16 山口県



萩市大井下馬場の猿田彦太神碑と碇石



萩市大井下馬場の猿田彦太神碑と碇石、碇石説明板



碇石が発見された佐々古浜の清掃風景。

萩市大井下馬場の碇石説明板の内容を記す。萩市指定有形文化財「元寇の碇石」。現在地上に現れた高さは 2.3 m、前面の最大幅は 34cm、横幅最大 22cm。全長推定 2.8 m。不整方柱形の暗紫色砂質凝灰岩製。中央部両横に深さ約 2cm、幅 5cm の帯状の溝がり、裏にも 25cm 間隔で 2 本の並行する陰刻線がある。この碇石は我が国の元寇遺物として最東端に位置する貴重な資料。指定：昭和 55 年 4 月 25 日。所有者：出口栄城。所在地：萩市大井下馬場。

碇石等の写真及び情報は 2011 年 7 月、萩市大井 1404、萩市大井公民館長の吉屋安隆さん、大井ふる里愛好会事務局 c-ooi@city.hagi.lg.jp、及び萩市大字江向 510、萩市歴史まちづくり部文化財保護課の松浦さん bunkazai@city.hagi.lg.jp から頂いた。感謝。



下関市立土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム展示のタコ壺。



下関市豊北町歴史民俗資料館所蔵のタコ壺。



萩市中善寺。遠隔地から来て没した船乗りの墓があったが、墓石を整理したようで見つからない。

Fig.17 山口県